



W コマンド

ここでは、[W] から始まる Cisco NX-OS ユニキャスト ルーティング コマンドについて説明します。

weighting

Gateway Load Balancing Protocol (GLBP) ゲートウェイの初期重み値を指定するには、**weighting** コマンドを使用します。デフォルト値に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

weighting *maximum* [*lower lower*] [*upper upper*]

no weighting *maximum* [*lower lower*] [*upper upper*]

シンタックスの説明	
<i>maximum</i>	最大重み値。範囲は 1 ～ 254 でデフォルト値は 100 です。
<i>lower lower</i>	(任意) 下限重み値を指定します。範囲は 1 ～ 指定された最大重み値の間です。デフォルトは 1 です。
<i>upper upper</i>	(任意) 上限重み値を指定します。範囲は下限重み値から最大重み値までの間です。デフォルト値は指定された最大重み値です。

デフォルト デフォルトのゲートウェイ重み値は 100 で、デフォルトの下限重み値は 1 です。

コマンドモード GLBP コンフィギュレーション

サポートされるユーザロール ネットワーク管理者
VDC 管理者

コマンド履歴	リリース	変更内容
	4.0(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン 仮想ゲートウェイの重み値は、ゲートウェイの転送能力の指標です。ルータ上のトラッキング対象インターフェイスに障害が発生し、そのルータの重み値が最大値から下限しきい値を下回るまで減ると、ゲートウェイは仮想フォワーダとしての役割を放棄します。ゲートウェイの重み値が上限しきい値を上回るまで増えると、ゲートウェイは仮想フォワーダのアクティブな役割を再開できます。

インターフェイスをトラッキングするには、**glbp weighting track** および **track** コマンドを使用します。インターフェイスがダウンすると、GLBP はそのゲートウェイの重みを指定された値だけ減らします。

このコマンドにはライセンスは必要ありません。

例

次に、GLBP グループ 10 のゲートウェイの重みを設定する例を示します。

```
switch(config)# interface ethernet 1/1
switch(config-if)# glbp 10
switch(config-glbp)# weighting 110 lower 95 upper 105
```

関連コマンド

コマンド	説明
glbp	GLBP コンフィギュレーションモードを開始し、GLBP グループを作成します。
glbp weighting track	GLBP ゲートウェイの重みに影響するトラッキング対象オブジェクトを指定します。
track	トラッキング対象インターフェイスを設定します。

weighting track

トラッキング対象オブジェクトのアベイラビリティに基づいて Gateway Load Balancing Protocol (GLBP) の重みが増減するようにトラッキングするオブジェクトを指定するには、**weighting track** コマンドを指定します。トラッキングを削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

weighting track *object-number* [*decrement value*]

no weighting track *object-number* [*decrement value*]

シンタックスの説明	
<i>object-number</i>	トラッキング対象オブジェクトを表すオブジェクト番号を指定します。トラッキング対象オブジェクトを設定するには、 track コマンドを使用します。範囲は 1 ~ 500 です。
<i>decrement value</i>	(任意) インターフェイスがダウン (または復旧) したときにルータの GLBP の重みを減らす (または増やす) 量を指定します。範囲は 1 ~ 255 でデフォルトは 10 です。

デフォルト デフォルトの減少値は 10 です。

コマンドモード GLBP コンフィギュレーション

サポートされるユーザロール ネットワーク管理者
VDC 管理者

コマンド履歴	リリース	変更内容
	4.0(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン **weighting track** コマンドを使用して、GLBP ゲートウェイの重みとゲートウェイ インターフェイスのアベイラビリティを関連付けます。このコマンドは、GLBP 用に設定されていないインターフェイスをトラッキングするのに有効です。たとえば、ゲートウェイと IP ネットワークを接続しているインターフェイスをトラッキングできます。

トラッキング対象インターフェイスがダウンすると、GLBP ゲートウェイの重みは設定された減分値だけ減ります。GLBP グループごとに個別に一連のインターフェイスをトラッキングできます。

トラッキング対象インターフェイスが復旧すると、GLBP は重みを同量だけ増やします。

複数のトラッキング対象インターフェイスがダウンすると、それぞれに設定されている重みの減分値が累計されます。

トラッキングしたいインターフェイスを設定するには、それぞれに **track** コマンドを使用します。

このコマンドにはライセンスは必要ありません。

例 次に、イーサネット インターフェイス 1/1 が 2 つのインターフェイス（番号 1 および 2）をトラッキングする例を示します。インターフェイス 1 がダウンすると、GLBP ゲートウェイは重みをデフォルト値の 10 だけ減らします。インターフェイス 2 がダウンすると、GLBP ゲートウェイは重みを 5 だけ減らします。

```
switch(config)# interface fastethernet 0/0
switch(config-if)# glbp 10
switch(config-glbp)# weighting track 1
switch(config-glbp)# weighting track 2 decrement 5
```

関連コマンド

コマンド	説明
glbp	GLBP コンフィギュレーションモードを開始し、GLBP グループを作成します。
weighting	GLBP ゲートウェイの初期重み値を指定します。
track	トラッキング対象インターフェイスを設定します。

wide-metric-only

ワイドメトリック リンクのみをアダプタイズするには、**wide-metric-only** コンフィギュレーション モード コマンドを使用します。制限を削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

wide-metric-only

no wide-metric-only

シンタックスの説明 このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

コマンドのデフォルト設定 なし

コマンド モード ルータ コンフィギュレーション
VRF コンフィギュレーション

サポートされるユーザロール ネットワーク管理者
VDC 管理者

コマンド履歴	リリース	変更内容
	4.0(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン メトリック値はリンクに割り当てられ、リンクと宛先ポイントの間のパス コストの計算に使用されます。メトリックの形式は次のとおりです。

- ワイドメトリック — 1 ~ 16777214 の範囲のメトリック値
- ナローメトリック — 1 ~ 63 の範囲のメトリック値

wide-metric-only コマンドは、ワイドメトリック値が割り当てられているリンクのみをアダプタイズします。

例 次に、ワイドメトリック リンクのみをアダプタイズする例を示します。

```
switch(config)# router isis 100
switch(config-router)# vrf management
switch(config-router-vrf)# wide-metric-only
```

次に、ワイドメトリック リンクのみを制限を削除する例を示します。

```
switch(config)# router isis 100
switch(config-router)# vrf management
switch(config-router-vrf)# no wide-metric-only
```

関連コマンド	コマンド	説明
	exit	現在のコンフィギュレーションモードを終了します。
	feature isis	ルータ上の IS-IS をイネーブルにします。
	no	コマンドを無効にするか、またはデフォルト設定にします。
	router isis	IS-IS をイネーブルにします。
	vrf	VPN Routing and Forwarding instance (VRF) を作成するか、または VRF コンフィギュレーションモードを開始します。

